

2020年3月18日

北海道新聞3月18日1面記事「MMJ生乳集荷一部停止」に関する抗議文

3月18日北海道新聞1面に掲載された記事「MMJ生乳集荷一部停止」に関して、事実と異なる内容があるので下記の通り訂正を要求します。

詳細な事実関係については、関係者に配慮しこれまで公表しておりませんが、このたびの誤った記事から、誤解や悪意による風評が拡散すると、MMJに出荷するすべての酪農家様、お取引先等にご迷惑をおかけする可能性があるため、詳細な事実をここに公表することといたします。

1. 商流について

記事の中では、あたかもMMJが各酪農家と直接契約しているかのような内容になっておりますが、事実と異なります。

“オホーツク管内の3戸”についてはちえのわ事業協同組合と契約し、ちえのわの独自の販売先のために、当初勧誘をしたと聞いています。

“十勝管内4戸”については十勝ミルクカンパニー株式会社とMMJによる契約で、酪農家との直接契約ではありません。

それぞれの所属酪農家の品質については、MMJの出荷乳質基準（下記）をもとに、出荷団体による管理が実施されており、MMJはそのサポートをしています。（十勝については、6戸と直接契約があったが、酪農家の希望により2019年12月から十勝ミルクカンパニー株式会社の契約となっています。）

【MMJ出荷乳質基準】※酪農家・出荷団体との契約書記載の統一基準

無脂固形分 8.50%以上 乳脂肪分 3.60%以上 体細胞 30万個/ml以下

細菌数 3万個/ml以下

血乳・抗生物質・アルコール反応（70%エタノール3対1）が陰性

色調異常なし、異物混入なし、風味異常なし。

農薬、飼料添加物、動物用医薬品を適正に使用すること。

比重 1.028～1.034（乳等省令に準拠）酸度 0.18%以下（乳等省令に準拠）

出荷時乳温 4℃以下

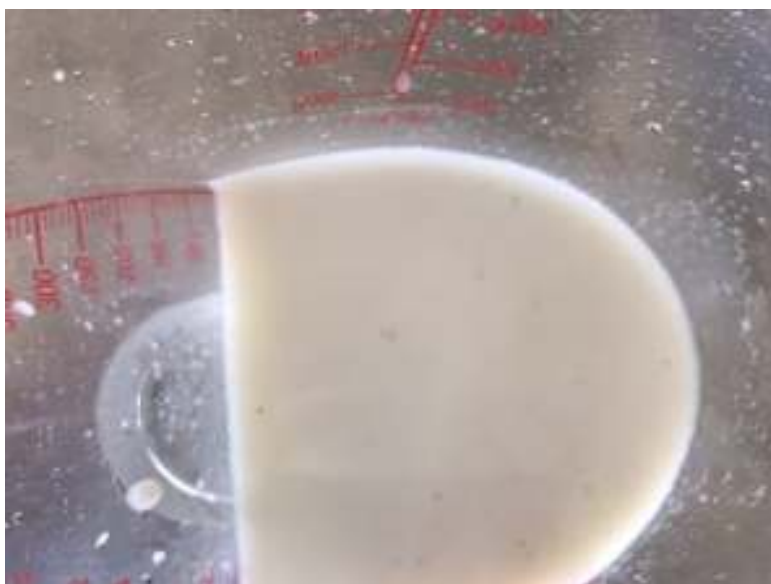
2. 品質の問題の詳細経緯について

オホーツク管内3戸、十勝管内4戸について、事実の経緯を下記の通り公開します。

オホーツク管内3戸（ちえのわ事業協同組合と契約）

2019年11月22日出荷の生乳（3戸の合乳）で、出荷先乳業で受入検査時に異物が見つかり受入拒否となりました。（北海道から本州までは2日かかるため、乳業に到着したのは24日。）

ちえのわ事業協同組合の調査では、異物がどこから発生しているのかについて、当初その黒い色から集乳車のインペラーが原因と推測されましたが、インペラー交換、のちに集乳車両変更後にも、連日同様の異物が見られ出荷先で返品となったことにより、ちえのわでは解決に至らず、原因究明のため、12月4日よりMMJから現地に人員を派遣し、調査を開始しました。



調査中見つかった異物

<異物の赤外分光分析検査>

異物は検査機関による赤外分光分析（FT-IR）によると、インペラー素材（クロロブレンゴム）ではなく、タンパク質、脂質、多糖類を中心とした物質であることがわかり、集乳車だけでなく、牧場にも立ち入り調査を実施しました。

その結果、集乳車では問題が見つかりませんでした。牧場3戸のうち2戸のバルク内部で同様の物質から成る異物が採取されました。

乳業着のローリーサンプルから採取した異物 赤外分光分析結果

検査結果
油脂及び多糖類
-1 乳糖・タンパク質
-2 セルロース、油脂
-3 多糖類、タンパク質
-4 シリカ
-5 多糖類、タンパク質

酪農家バルクから採取した異物 赤外分光分析結果

牧場名	生乳を晒しにかけ採取	生乳を静置し浮いた異物を採取
A	タンパク質、多糖類	多糖類
B	タンパク質、多糖類、シリカ	油脂、多糖類
C	タンパク質、多糖類、油脂、シリカ	油脂、多糖類、タンパク質

<牧場内の調査>

酪農家 A では、バルク 2 基のうち 1 基は外殻のステンレス製カバーより生乳が漏れ、もう一機は内側のタンク本体に亀裂等が見つかりました。

①酪農家 A

◇バルク内に 10 センチほどのクラック（ひび割れ）が一か所発見される





10センチほどのクラック（ひび割れ）
→12/17に内部溶接修理を実施



外部までの貫通は無かった



溶接風景（バルク内部）



溶接風景（外から見た様子）



ひび割れ部分溶接、研磨後



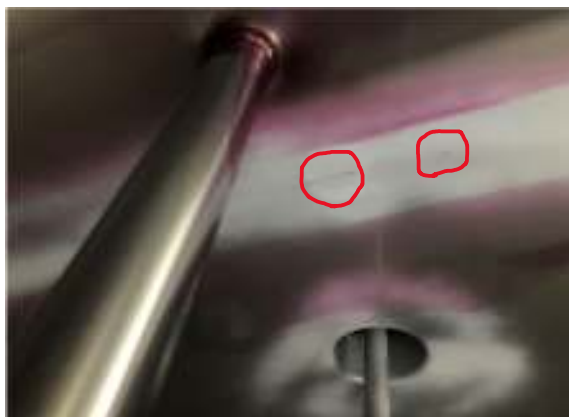
探傷剤にて再検査、ひび割れなし

◇生乳出口部分のコック内部の汚れ



→12/17 にワイヤブラシで汚れを除去、定期的に清掃を実施、記録を依頼

◇バルク内天井部に2～8センチ程度のクラックが2個発見される→業者での溶接修理



発見されたクラック



外部への貫通はなかった



溶接修理後



探傷剤にて再検査、ひび割れなし

◇バルク洗浄パイプラインに3mm程度のピンホール

洗剤、水、生乳の漏れが確認され、ピンホール周辺の断熱材は変色している



変色した断熱材①



変色した断熱材②



応急処置



窒素による確認

→12/16、パイプラインのピンホール周辺に耐熱ホースを巻き、バンドで固定(漏れを防ぐ)

窒素を使用した検査にて漏れがないことを確認。

バルク 1、2 ともに欠陥が見つかったのでバルク交換を依頼。

◇バルク冷却機の排熱風がバルク上部ベンチレーター(通気口)付近にあたる状態
(冷却機の風と共にゴミがバルク内に入る可能性)



バルク 1



バルク 2

→ベンチレーターの位置を後方→前方に変更し、冷却機の排熱風が当たらないようにした
ベンチレーターにビニール袋をかぶせ、埃が入らないようにした

②酪農家 B

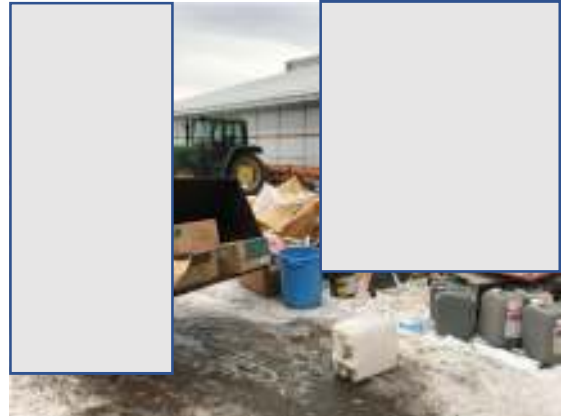
◇バルク室内環境が衛生的ではない



バルク周辺の様子(生乳が通るパイプのカバーがボロボロ、床の汚れがひどい)



ゴミや物が床に散見される



バルク室からは大量の不要物

→2020年1月に業者による壁、床の清掃を実施
バルク室の定期的(最低週に一回)の清掃を徹底することを依頼

③酪農家 C

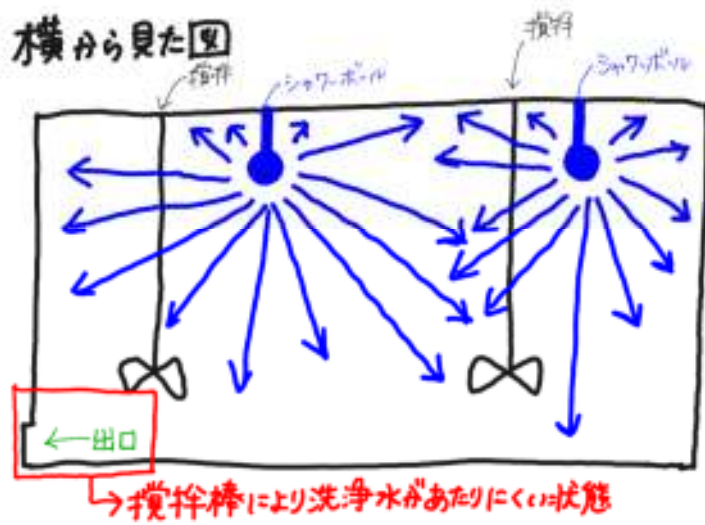
◇バルク内、長期にわたり堆積したとみられる洗浄不良による汚れ



バルク内洗浄不良箇所



バルク内構造



原因は、バルク内部の構造的な問題
 →攪拌棒が、出口付近に洗浄水が当たるのを邪魔している状態

オホーツク管内3戸では、連日異物が見つかり返品となるなかで調査をしていましたが、各農場とも問題となるバルクタンクに入る直前の生乳からは異物は検出されませんでした。この事から異物の発生元はバルクタンク内にあると判断されました。

即時にバルクタンクを販売、設置した業者を呼び、バルクタンクの亀裂や漏れなどの検査を依頼しましたが、対応が遅れ調査、修理を終えるのに1カ月近くかかりました。

調査で判明したバルクの汚れや亀裂の画像を販売先乳業に報告した際は驚きの声があがり、乳業から「この度の異物事故は起こるべくして起こった」と、管理の杜撰さについて厳しい指摘を受けました。

11月27日出荷分でちえのわ事業協同組合からの集乳車両変更の申告により出荷再開しましたが、実際には車両変更されていなかったことも、販売先からの不審は高まり、牧場側バルク調査着手の遅れにつながりました。

このような経緯で、約1か月間にわたり調査と分析を行い、2019年12月30日にはバルク修理等の実施報告と、1月6日にはちえのわの皆様との同行で、販売先への状況説明をしましたが、信頼回復には至らず、受入再開の了承を得ることはできませんでした。

MMJとしては今後、牧場に対する管理強化、出荷前検査の強化により、販売先への信頼を回復していかなければなりません。

異物が発生している出元の特定、その後の対応の遅れが末端の販売先を失う原因になりました。

当該異物の発生元であるバルクタンクの製造者、販売者、管理者の責任は重大であると考えます。MMJは甚大な信用と販売枠の棄損を余儀なくされました。

牛乳は日配品であり、原料である生乳は品質、量とも安定供給を実現して初めて、売り場に並ぶものとなります。

最大限、早期の信頼回復に努めておりますが、失ったものは大きく、未だ回復に至りません。

十勝管内 4 戸（十勝ミルクカンパニー株式会社）

十勝管内 4 戸で発生した品質問題は、アルコール検査で陽性となったことです。

記事の中では「簡易検査で異常が出た」とされていますが、事実と異なります。

2019 年 12 月 13 日出荷の生乳（合乳）で、出荷先乳業受入検査時、アルコール検査陽性となり受入拒否となりました。（到着は 15 日）

13 日に 2 台出荷しており、2 台とも乳業の受入検査でアルコール検査陽性、翌 14 日出荷の生乳も同様の理由で、返品となりました。

いずれも、**乳業の正規の受入検査**であり、簡易検査ではありません。

15 日出荷前検査（十勝ミルクカンパニーと酪農家自身が実施したものです。）では、6 戸中 4 戸がバルク乳で陽性となったため 4 戸の出荷を中止し（全体量の 15%）、原因調査を開始しました。

共通してみられたことは、厳寒期ということもあり、気温変動が激しいときに陽性となる傾向がありました。

毎日のバルク乳検査、および個体の全頭検査を MMJ 立ち合いのもと実施し、飼料の改善や飼養環境の改善に取り組み、改善された 1 戸は出荷を再開しました。

また、この期間中も、一度も陽性になっていない 2 戸の集荷は問題なく行っていました。

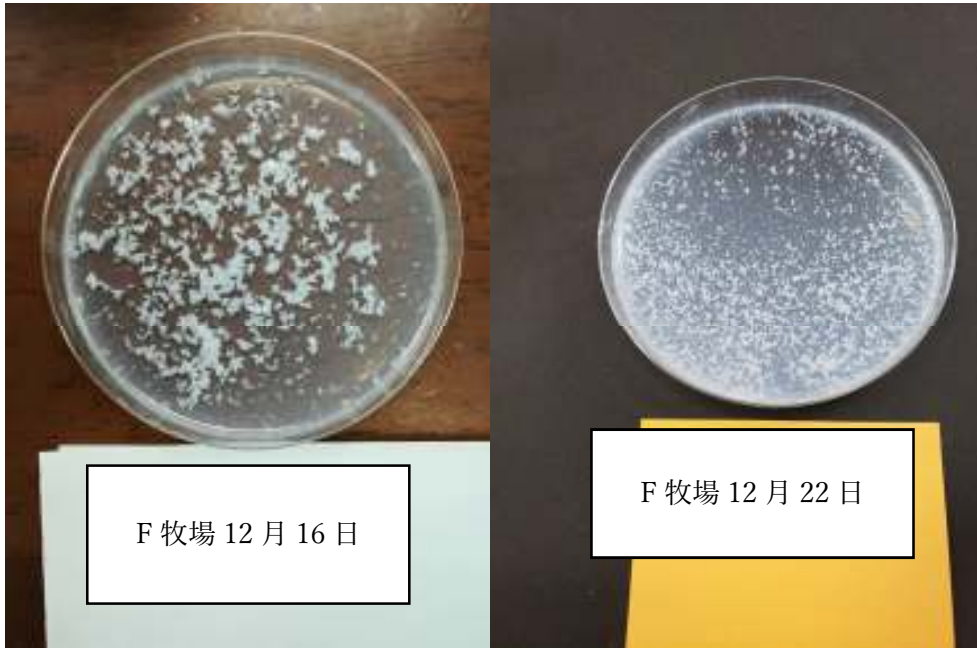
その他の酪農家の出荷再開に向けては、気温変動が牛に与えるストレスを軽減する対策などを、専門家を交えてアドバイスをを行い、品質安定を図りましたが、改善がみられない酪農家については、十勝ミルクカンパニー株式会社、MMJ とともに、受入ができないという判断をせざるを得ませんでした。

発生からの検査結果推移（下 4 戸が出荷停止→農家 C は出荷再開。）

農家	12/16	12/17	12/18	12/19	12/20	12/21	12/22	12/23	12/24	12/25	12/26	12/27	12/28	12/29	12/30	12/31	1/1	1/2	1/3	1/4	1/5
A	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
B	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
C	+	+	+	+	+	±	±	±	+	+	±	+	-	-	+	+	+	±	+	+	-
D	+	+	+	+	-	-	-	±	±	+	+	±	+	-	+	±	+	+	+	+	+
E	+	+	+	+	不明	±	-	±	不明	-	-	+	-	-	不明	-	-	-	-	-	-
F	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

※上記、出荷前検査（酪農家を実施する）に使用するアルコールは、既製品エタノール製剤 NK75 を 2015 年から MMJ 契約農家に統一的に使用。（酪農場での 70%調製が困難であることから）

規格：エタノール含量 65.9～69.9、比重換算 73.3～77 度



アルコール検査陽性の画像

3. 生乳品質についてのMMJの方針について

オホーツク管内3戸、十勝管内4戸に共通することは、長期にわたり問題が継続し、その間当該数量分の生乳が欠品となったことです。

記事の中で、生産調整のために集荷を停止したのではないかと書かれていますが、生乳の需給が緩和している時こそ、安定的に計画通りの出荷を行い、販売先を確保しておくことが重要なのです。需給緩和の状況下では、末端の競争が激しくなっており、小売り側も仕入れの切り替えが逼迫時期に比較して容易にできる環境です。

MMJでも、代替の調達に走りましたが当日の返品分を即座に用意することは難しく、結果として乳業の販売先が失われました。

MMJとしては、信用棄損の原因については厳しく責任追及しなければなりません。同時に、正常な生乳を安定して出荷していただいている契約酪農家の皆様の生乳については、販売先の高い評価を得て、信頼関係のもとに販路を確立しております。

その販路は、契約農家様の高い品質レベルに裏打ちされたものであるため、全体の品質への信用を維持するために、品質面で、風味異常や異物の混入、二等乳を購入することはできません。

乳業の受入検査で異常が判明した生乳は製品となることはありませんので、一般消費者の方にはご安心くださいますようお願いいたします。

今回、問題となった農家さんの一人から、「どんな牛乳でも売るのが仕事だろう（MMJの）」という声がありましたが、それは違います。

酪農家だけで業界が成り立つわけではなく、生乳を受け入れる乳業があり、販売する問屋、小売業があり、酪農乳業界が成り立つのです。

1本の牛乳パックを買い物かごに入れるお客様の信頼があってこそその業界であることを忘れないでほしいと思います。

株式会社MMJ
代表取締役社長 茂木修



※本文内容については、MMJとの直接の契約者であるちえのわ事業協同組合、十勝ミルクカンパニー株式会社の了承を得ています。